

(1) 基本理念

①教育理念

社会や保健医療制度がめまぐるしく変動する昨今にあつてなお、深い洞察力とたゆまぬ探求心に基づく専門的知識・技術はもとより、豊かな感性と人間愛を兼ね備えた前途有為の医療専門職業人を育成することにより社会貢献を図ります。

(2) 総括

2019 年度は、次年度施行される PTOT の指定規則の改正に伴い、校舎の改修工事を行った。実習室の新設もあったが、既存の建物内で検討したことにより、4 学科の教務室をひとつにする機会になり、学院全体を統一化する環境が実現できた。また、併せて新カリキュラムに対応できる教室の増設、更に自習室や休憩室、パウダールームなど学生の要望に応え、学習環境を整えた

①在校生の状況

学科		定員	年度開始	休学	退学	現在学生数	欠員
理学療法学科	昼間部	120 名	120 名	1 名	0 名	119 名	△12 名
	夜間部	160 名	154 名	3 名	2 名	149 名	
作業療法学科	昼間部	90 名	87 名	3 名	0 名	84 名	△34 名
	夜間部	120 名	97 名	4 名	1 名	92 名	
言語聴覚学科	昼間部	90 名	90 名	2 名	2 名	86 名	△4 名
介護福祉学科	昼間部	80 名	47 名	1 名	2 名	44 名	△36 名
全体		660 名	595 名	14 名 (2.1%)	7 名 (1%)	574 名	△86 名 (13%)

2018 年度同時期の休学者は 19 名 (2.8%) に比較して 5 名減少。退学者は 4 名 (0.6%) で 3 名増加。また、退学率 1.2% は全国的にも低い状況である。また、2019 年度入学定員割れ 23 名 (夜間 OT8 名、介護 15 名) も大きく影響した。

②学生募集活動

ICT を有効活用しながら、興味を持つ方と直接顔を合わせ、ガイダンスや窓口・電話等において分かり易く学校案内を行うこと、丁寧な高校訪問を今後も常に心掛け、入学生確保に努める。また、定員確保が出来ず、近年、基礎学力の低い学生を受け入れているが、早期に対策し、教育理念に基づく、現場から求められる人材を育成したい。今後も学院長を中心に、教員・職員一丸となって学生教育を行う。

a. 前年度に引き続き「30 周年記念キックオフプロジェクト」と称したリハビリテーション専門職・介護職の職場見学ツアーを大浜第二病院のリハスタッフ協力の元、企画・運営し、68 名の高校生・社会人の参加があった。(内 48 名受験 (AO46 名、推薦 1 名、一般 1 名))

b. 今年は、全体的に受験者数が減少した。県内に PT 養成校が 3 校で、1 校 PT 昼間部の新設があった。

c. オープンキャンパスの参加人数が減少したため、10 月にも「入試対策キャンパスツアー」を企画・開催し 28 名の参加につなげた。

d. 一般入試 I 期を早期 (9 月) に実施した。

e. SNS を活用し動画の配信や記事の投稿を行い、本学院の PR に努めた。更に、リハビリテーションや介護の職業に興味を持てるようにガイダンスの内容を職業理解に重きを置き、内容を充実させ、全学科実施。

f.介護福祉学科では、おもと会グループ奨学金及び他法人の奨学金制度の広報を進め、学生の確保を行った。(1年生11名、2年生5名が受給)。

また、外国人留学生2年生が2名(ネパール1名、フィリピン1名)国家試験に臨み合格。今後は、県内の介護事業協同組合と連携し、外国人、特にフィリピン人留学生の受け入れに積極的に進める。

外国人留学生の需要は高まることが予想されるが、入学定員半数以下20名以内を基準としたい。

県内法人立看護学校4校(北部看護学校、ぐしかわ看護専門学校、那覇看護専門学校、沖縄看護専門学校)と当学院の5校で、進学ガイダンスを高校1、2年生対象に2月に開催予定していたが、コロナウイルス関連で中止。

h.職業理解のためのリーフレットを活用し、進学ガイダンスで説明を実施。

③学内教育

a.国家試験対策委員を立ち上げ、分析を行いながら、国家試験対策に取り組んだ。

b.自己点検自己評価については、前年度より着手し完成。

c.次年度、職業実践専門課程の認定を取得できるよう、必要な要件を今年度で実施してきた。

d.心とからだのヘルスケアセンターとの情報交換会を定期的開催、学生指導や支援について、情報交換や助言を頂いた。今後も積極的にヘルスケアセンターと連携し、退学・休学を未然に防止を進める。

④就職活動

就職説明会参加	県内	県外	合計	案内文書発送数
第1回	28 施設	38 施設	66 施設	534 (県内 298、県外 236)
第2回	40 施設	56 施設	96 施設	553 (県内 298、県外 255)

就職説明会では、県内外の病院・施設より過去最高の出席申込だった。求人数についても前年を越える状況、就職率は100%だった。

(3) 人員配置と質の確保

①2019年度職員配置

学 科	定 数	法定数	配置数
学 院 長		1	1
副 学 院 長		1	1
教 務 部 長		1	1
理 学 療 法 学 科		12	12
作 業 療 法 学 科		12	12
介 護 福 祉 学 科		3	3
言 語 聴 覚 学 科		5	5
事 務 部		9	8 (1)
合 計		44	42 (1)

事務については広報担当者の配置をどのようなスタッフにするか、決めかねている状況。統括本部と調整しながら採用を進める。

②学会参加に関する事項

ア. 2019年5月18日 第20回沖縄県理学療法学会

Google Forms 及び Fusion Table DB を利用した災害時の病院施設等安否確認及び被害状況収集システム構築の試み

イ. 2019年5月18日 第20回沖縄県理学療法学会

脳卒中片麻痺症例における下肢装具条件の違いによる筋電図学的検証

ウ. 2019年5月19日 第20回沖縄県理学療法学会

Web 会議システム「Zoom」を用いた離島における研修会開催の試み

エ. 2019年9月6日～8日 第53回日本作業療法学会（福岡）

精神科病棟に勤務する作業療法士のストレス対処行動と職務満足度の関連性

教員については研究発表が積極的に進められるよう、年1回の県外研修機会とは別に、学会発表を可能にした。
また、事務職の学会発表がないため積極的に進める。